

CONTENTS

HAYANO GROUP
COMMUNICATION MAGAZINE

表紙の写真

雑誌「中央線」

雑誌「中央線」は、昭和33年2月1日の創刊である。編集者は藤巻宣城、発行者は深沢寿男、印刷者は佐藤森三、表紙絵は内田一郎が土蔵を描いている。

創刊号には、山田多賀市、熊王源平、赤村清藏らが健筆をふるっている。定価100円。続いて2号を同年5月25日発刊、世間の評判をとった。個性豊かな珠玉が寄せられ販数も増えた。発刊にしたからには3号雄鷹に終わらせてはいけない。

県内雑誌はこれまで度々経営難で発行不能の苦境を見ている。ならばと組織強化が図られ両人の参加を求めた。一瀬穂を編集人に、ここに新「中央線」を創刊したが、続刊されることはなかった。気負いすぎたか、両人誌発行はむずかしい。

世間では藤巻宣城編集を第一次「中央線」と呼び、一瀬穂編集を第二次「中央線」と呼ぶ。第三次「中央線」の復刊を見るのは、これから十年の歳月を待たなければならぬ。

(解説:奈良余美文庫 横松光宏)

『MUH』vol.24 2001.4.1

企画/早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・坂本孝治・望月賢

編集/株式会社ニュースメディア甲府

三浦弘・三井君男・高山ひとみ・原田陽子/

宮塚利雄・杉村聰・青木茂樹/

浅川毅・櫻井明・永田宏

印刷/株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した
Mete (仲間) Union (結束) Harmony (調和) の頭文字から
とりました。このムード大陸のロマンを目指します。

フォーラム	2
テーマ宿題 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美	
対談	
山梨21 清雲俊元氏 放送作家・山梨郷土研究会理事長	4
宗教的聖地、山梨の風土 心の教育、家庭の絆 春風と一緒に靈場めぐり	
ホスト 早野 濡	
トピックス	
アジアの中における日本のIT産業の実態 宮塚利雄	10
ウォッチング	
有限会社 いちのせ 代表取締役 一瀬仁志氏	11
サークル訪問	
デュークフラワー・タカコルーム	13
セミナー	
『ITによるビジネス革新の落とし穴~消費者行動の理解の重要性~』 青木茂樹	14
レディースセミナー	
「竹内てる代の闇病と愛の詩」 佐藤信子	15
インフォメーション	
トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運・早野組	16
歴史	
穴山信君夫人・見性院 上野晴朗	18
美術	
ボクの美術品観察日記17 山本育夫	20
BOOK こんなところに山梨… BOOKコーナー 「芝居の食卓」	22
お茶の間の民俗学(15)	
—ふるさとの心と味(10)— 志摩阿木夫	23
浦を見るハイキング	
大滝川・大滝(雄滝) 上野 岩	24
甲府通運前史を訪ねる(17) 林陽一郎	25
ユーザー訪問	
小作・清里店	26
お家探見	
若林 一さん	27
エッセイ	
「オホウトウ」を哲学する 清水 咸	28
ときのひと・FACE	
トヨタビスタ山梨 菊崎店サービススタッフ 西 由美子さん	29
トレンド	
めざせ、人間アウトレット	30
おしゃれ グランパーク 東宝8 たべる 広東名菜 順徳	31
コラム	
某月某日 杉村 聰	32

宿

題

繰り返す人生

江宮 隆之

いつも心の中に置き忘れたものがあるような気がしないならない。仮にそれを「宿題」と呼ぼう。人生の宿題、といってもいいかも知れない。

あの時にこうしていたら、あんな言葉を言わなかつたら、あんな場所に行かないでいたら…。

「宿題」は時として「後悔」に似た思いになってこみ上げてくることもある。引き返せない人生で、宿題は限りなく重く現実の上にのしかかってくる。

何度も読み返している小説がある。アメリカの翻訳物だが読む度に新しい発見をし、新しい感動に浸り、人生を再考する。人は一回きりの人生しか生きられないし、必ず死ぬ。それは自明の理であるが、それでも別の人生を生きられたら、と考える。やり直せる人生はないか、とあがく。

この小説は、そんな期待に応えつつも一回しかない人生が素晴らしいものであり、素晴らしいものにするのは自分自身であると教えてくれる。そしてどんな人生を生きてても、人は必ず後悔するものであることも。だから人生が大切であり、死ぬまで懸命に生き抜くことが何より大事であると分からせてくれる。

この小説『リプレイ』(ケン・グリムウッド著)は、心臓

麻痺で突然死した主人公が、大学生の頃に戻ってしまうのだが、記憶や知識は死ぬ直前のまま、という設定の物語である。主人公は必ずその年齢になると心臓麻痺で死ぬことになっていて、どんなに成功しても女性にもても人生はそこで終わるように決められている。何度も「リプレイ」を繰り返すうちに、同じ経験を繰り返している他人の存在に気付いたりして…。

この物語を読み終わって、自分の目尻が涙で濡れていることにいつも気付いて、はっとしたりする。

最近、何度も目を読み終えて、ああそうか、人生はだからいいんだ。しみじみ思った。それは「人生の宿題」を背負ったり、後悔に似た思いを引きづりながら生きていくことが大事だ、ということである。

人間は生まれてくるには理由がある。どんな善人も悪人も意味があってこの世に生まれてきている。それは、人間が太古から、いやそれよりも遙か以前から背負わされている「宿業」に繋がる。

宿題を一つ終えると次の宿題が待っている。決して終えることの出来ない宿題もある。そして生き、死んでいく。

宿題が人生の意義と意味を我々に教えてくれるのである。

そして今、人類共通の宿題へと

古屋 久昭

子どものころの宿題は目のうえのタンコブみたいで、けして歓迎できるものではなかった。とにかくそのころは、なにがなんでも遊び呆けていたかった。

それでも先生から指示された宿題をサボることはめったになかった。どちらかといえば、きっちとけじめをつけておかないと気がすまないタチだから、いくら遊び回っていても宿題だけはしっかりやった。

あるとき、あまりに遊び疲れて、宿題のことはとんと忘れて眠ってしまった。朝、気がついてあわてて宿題に手をつけた。ややこしい算数の応用問題だったから、思いのほか時間がかかってしまった。学校の始業時間に1時間も遅れてしまった。そこで先生にウソをついた。「風邪を引いて、頭が痛くて、重くて、今日は体もうと思つたけど、頑張って、来ました」。

すると先生は、「えらいなあ、みんな古屋のように頑張らなくちゃ。少しばかり身体の調子が悪いからといってすぐに学校を休んではだめだ」。

ウソも方便、それどころか先生にホメられるおまけまでついた。

そんな想い出のある宿題も、やがて時を経て青春時代に突入してからは、宿題の様子が一変した。他人から与えられるというものではなく自ら課す宿題となつた。いかに青春を楽しむか、遊ぶか、女にモテるか、恋をするか、などという世間一般、青二才の宿題であった。

中でも「恋」などという宿題は、奇々怪々なる宿題で、これには散々弄ばれてしまうことになるのだが、何のことない、解いてみれば、覚めてみれば、 $1+1=2$ という実にシンプルな式と答であった。

人並みに結婚して家庭を持って子どもを育て、瞬く間に30年。サラリーマン生活をわずかに残して、いよいよ人生の後半。「いかに生くべきか」という難儀な宿題が今、目の前にぶら下がってきた。この宿題、まじめに解くか、放っておくか、さてさて、いかがしよう。

そしてもう一つの厄介な宿題、人間のごく慢な生き方、足るを知らない生き方がこのまま続いていけば、人類を含む地球生命の未来が危ない。

そう、この人類共通の宿題にも、21世紀を生きる者として頭を悩ませねば。

「宿題」という生き方

岩崎 正吾

子どもの時に毎日、宿題をやらされた。忘れる(たいてい故意に忘れるのが)、バケツを持って立たされたり便所掃除をやらされたりした。放課後遊んでいると、通りがかりの大人が「宿題やったのかあ」なんて不幹な声をかけてきた。内心の動揺を隠して、「ああ、やった、とっくだあ」なんて答えたものだ。

宿題が苦痛だった記憶はあまりないが、バケツを持って立つても、どういうことがなかったからだろう。昔は大人も子どもものんびりしていた。

しかし、三つ子の魂百までと言うが、いつの間にか宿題を抱えて生きるのが習い性になってしまった。時々、独り言をいうことがある。「さあ、宿題をやらなきゃ」

ずっと宿題のように思っていたのは、山梨ふるさと文庫で百点の本を出すことだった。百冊くらいないと「ふるさと文庫」の名が泣くし、百点出版を最初から宣言してきたからだ。20年かかったのだから、思えば長い宿題だった。

終わったときはさぞや感無量だったことだろうと思うかも知れないが、自分ではさほどことはなかった。

百冊の刊行なんて、全国レベルでみればたいしたことない。

次なる宿題は、山梨ふるさと文庫の総刊行点数を二百点にすることと、わたし自身の著作を五十冊にすることだ。前例からするとあと20年かかる計算になるが、そうなると80歳近くなるからたぶん寿命は尽きているだろう。だから、いかに短期間に宿題をやりとげるかが重要になる。

わたしの人生には、こんなふうに死ぬまで宿題がついてまわるようだ。自分でせめてもの教いだと思うのは、子どもの時から今まで宿題を苦にしたことが一度もないことだ。宿題はわたしにとって苦役ではなくて、一つのゲームの終わりみたいなものだ。

宿題は、「人生の目標」だなんて言うとカッコよすぎる。「大言壯語」のなれの果てと思っていただきたい。「宿題やったかあ」「ああ、とっくだあ」

と言って、笑って死にたい。そう念願するが、しかし、これから的人生はサイコロの目しだいだろう。寿命は神のみぞ知ることだからだ。

トウキビ烟の男

佐藤 真佐美

国民学校1年生の夏休みの宿題は、昆虫の標本作りであった。最低10種類がノルマだった。トンボ、コガネムシ、クワガタ、バッタ、セミ、キリギリスと捕まえ、目標達成寸前で昭和20年8月15日を迎えた。といって、宿題が中止になったわけではない。

その時ぼくはトウキビ烟で、アゲハ蝶を追っていた。カサッと茎が折れ、ギョッと立ちすぐむ。トウキビの陰に見知らぬ男がいた。垢まみれのぼろをまとい、裸足で、髪の毛も髭も伸び放題、顔はどす黒く、目だけが異様に光っていた。男は生のトウキビをかじりながら、妙なアクセントで聞いた。

「おまえ、なまえ、なにか」「佐藤文一郎の息子の、眞佐美です」

戦災で家族とはぐれたときのために、人から名を聞かれたらそう答える、と言っていた。男の正体に見当がついた。緊張でからかちになりながらぼくは答えた。

「とし、なんばか」

六つ……と、いったあとだったかどうか、ヒューヒュ音が鳴った。蒸気機関車がやってくる。男はゆっくりと烟の中へ消えた。目の前を機関車が通過する。頭

見知りの運転手が手を振った。ぼくは一瞬遅れて手を挙げた。ちっぽけな機関車に、丸太を積んだトロッコが20台くらい連結されていた。丸太の上に、やはりみすぼらしい服装の男が、何人か座っていた。

戦争末期に労働力の不足を補うため、朝鮮や中国から男を無差別に強制連行し、全国各地の鉱山や事業所へ送った。その数は中国人37,524人(外務省報告)、朝鮮人1,519,142人(朝鮮人大学校の推定)。知床、斜里、管轄林署の森林鉄道敷設工事に外国人が従事したことはわかっているが、正確な数は報告されていない。

かつてわが家の畠の真ん中を森林鉄道が走っていた。その線路の延長工事に、外国人労働者が従事していたことは聞いている。労働者はタコ部屋とよばれる飯場に鍋で餃がれ、家畜以下の扱いを受けていた(佐藤毅『鎮塚・常紋トンネル』)。幽靈の出るトンネルは現存する。飯場を脱走した労働者が見せしめのためになくなり殺された話、働けなくなると生きたまま線路の下に埋められた話は数知れない。トウキビ烟で

あった男のことをいつか活字にする、とぼくは自分に宿題を課している。

江宮隆之
1948年山梨県生まれ。作家、著書に「山梨の人」「山梨のあらに住むます一人石徹進山の生き方」「著者の邊にゆかれ」「歌人・山梨在地の生涯」「明治元治の歌」などがある。

古屋久昭
1943年群馬県生まれ。日本銀行法人会員。日本銀行国際化研究評議員。群馬県に「古屋久昭」。日本、著書に「沙汰して見て見たい」などがある。

佐藤眞佐美
1944年群馬県生まれ。作家。山梨ふるさと文庫代表。著書に「それでも本のつらさオーバーアンダーライン」。群馬県に「眞佐美」。また、インターネット上で作家・眞佐美法事。新作「スティーブ『魔術の名』が作られ同時に『魔術の歌』が生まれた」。

日高義徳
1950年群馬県生まれ。日本農業大学卒業。日本農業大学講師。著書に「山梨の太東百姓」。『山梨の山』(著者に「日高義徳」)。『山梨の山』(著者に「日高義徳」)。『山梨の山』(著者に「日高義徳」)。





早野 潔

ゲスト

きよくも しゅんげん
清雲 俊元氏

放光寺住職
山梨郷土研究会理事長

市スト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

■ 「共に歩む」という心 人気の甲斐の靈場めぐり

早野 甲斐百八靈場めぐりが、静かなブームになっています。定額山善光寺を第一番に、身延山久遠寺まで、百八の寺院を巡礼するのですね。先生が監修されたガイドブックも好評です。

清雲 山梨県の風土は厳しく、神秘であり、宗教的聖地そのものです。多くの高僧がここを拠点に全国的な宗教活動を展開してきた歴史があります。優れた仏教文化が残されています。

甲斐百八靈場は、この聖地・山梨全域を、ひとつの靈場とみて、巡拝順路が定められています。

早野 巡礼は、四国遍路で広く知られています。弘法大師が修行した88ヶ所の靈場をめぐるのですね。普段笠をかぶり、金剛杖を突き、「同行二人」と書かれた笈指を着た姿が目に浮かびます。

清雲 「共に歩む」という心です。普段笠は宇宙を象徴する大日如来を表わし、金剛杖は観音菩薩や大師の化身であり、「同行二人」とは、大師とともに遍路をさせていただくという意味です。

早野 人がいま、何を求めているのかを知ることができますね。巡礼とは、心の旅なのですね。

清雲 生きることの道しるべ、といつてよいでしょうか。

早野 放光寺が主催される「甲州巡礼の集い」は、もう20年にもなると伺っています。

清雲 現在、350人を超える会員がありまして、毎月1回、バス2台で

甲斐百八靈場をめぐっています。姿、形にこだわることはありませんし、巡礼に難しい決まりはありません。どなたでも、仏様を一心にお参りするという心さえあればよろしいのです。

早野 心のために、歩くのですね。なにもかも忘れ、仏様にお参りをするという一日は、尊いですね。自分を見つめ直す時間もありますね。

清雲 甲斐百八靈場めぐりは、地域の歴史や文化財を訪ねる旅でもありますし、季節の花を楽しんだり、お祭りに出会ったりする旅でもあります。ご夫婦連れや、グループでお寺めぐりをする方々を、このところよく見かけるようになりました。

早野 お寺というのは、一年に何回か、先祖の供養に行くところだという思い込みがありますが、じつは、会社や、学校へ行く日常の道と、地続きなのですね。

清雲 現代は、しかし、この道が忘れられているので、人は不安や悩みがあるとき、ただ、一人きりで立ち止まってしまう、ということになります。

お寺というのは、癒しの場であり、また、再生の場なのですね。

■ 社会に「開かれた寺」 歴史探訪の楽しみも

早野 放光寺をお訪ねすると、いつも季節の花に迎えられます。誰にでも開かれたお寺、という思いを深くします。四季折々の山菜を使った精進料理で、おもてなしもしてくれます。こうしたお心づかいによって、仏様を親しく、身近なものにすることができます。

清雲 お寺は、人の行き来がなければならぬと思います。花を眺めて、

ほっとされることでもいい、お茶を一服召し上がるっていただいて、安らぎを得ていただくことでもよいでしょう。

早野 甲斐百八靈場も、宗派を超えて選ばれていますよね。ここにも、開かれたお寺の理念がうかがえます。

お寺はまた、それぞれ由緒があり、遙かな物語を秘めていますよね。歴史探訪も、お寺めぐりの楽しさでしょうか。

放光寺は、いまから800年をさかのぼる平安末期、安田義定によって開かれたのですね。

清雲 義定は、新羅三郎義光の子義清の四男で、武田氏の祖である信義の叔父にあたります。

早野 甲斐源氏の大将で、富士川の源平の合戦で有名ですね。富士川で源平が向かい合っていたとき、甲斐源氏は間にまぎれて上流を進軍します。その気配に水鳥の群れが一斉に飛び立ち、その羽音に、平家は驚き、逃れていくのですね。

清雲 義定は劣勢にあった源頼朝を助け、源氏の一門として重んじられ、大いに栄えるのですが、しかし、頼朝はその勢力を恐れるようになります。とうとう軍を向けられ、自害をするという最期をたどります。

早野 重要文化財の本尊・大日如来や、不動明王、愛染明王座像などは、義定が京から移したものだそうですね。ことに天弓愛染明王は、日本最古のもので貴重です。その昔より、恋愛成就のご利益があると、若い方々からも信仰されてきましたね。

清雲 武田信玄の時代になりますと、祈願所として、あつい庇護を受けました。

早野 武田信玄が没した後には、織



田信長の甲州攻めで、兵火に見舞われてもいますよね。

清雲 現代の堂宇は、江戸、慶長年間以後に再建されたものです。

早野 季節の花に、精進料理、そして美術鑑賞と、さらに魅力的で、誘われます。郷土史にも導いてくれます。

仁王門をくぐると、すうっと、心が引き締まります。長い歳月、どれほど多くの人々がこの門をくぐったことでしょうね。仏様にどんなことを訴え、また、救われてきたことでしょうね。

清雲 仏様のお耳は、大きいですかね。

かわいい子には旅を師との出会いと教え

早野 先生は、放光寺のご住職であるばかりでなく、宗派を超えた活動をされる。さらには、郷土史の研究家

として著名であり、また、山梨県の教育委員をなさってもいます。先生ご自身が、開かれた生き方をされておいでなのですね。

清雲 若き日に学んだ師の教えが、いつも胸にあります。師は岡言智といいまして、もとより仏門に帰依していましたが、昭和のはじめ、まだ外国で学ぶということが珍しかった時代にドイツに渡り、キリスト教に出会いました。やがて洗礼を受けようとした人です。

早野 それは、特異な経歴のもち主でいらっしゃいますね。

清雲 私が中学生のときです。仏教について学ぶべく、いろいろ本を読んでいましたら聖書を渡されました。

変わった師匠だと感じましたが、いまにして思えば、今日があるのはまぎれもなく師匠のお陰であると実感し

ます。

早野 世界観を広くもちなさいという教えだったのでしょうか。

清雲 お寺の修行というのは、永年の間、家を出て生活をしますが、そうした修行のあり方も、今日を支えています。他者がわかるようになりますし、自分の発見にもなります。

早野 かつては、商家の子どもであれば余所に預けられ、丁稚小僧として一定期間修行する、ということがごく一般的でしたね。商いを覚えることはもちろんですが、礼儀や生活習慣、しつけも身についたものです。

清雲 こうした人間形成の機会が、現在では、すっかり失われてしまいました。

早野 昔の親は、「かわいい子には旅をさせろ」とか、「お他人の飯を食わなければ一人前にはならない」とか、よく言ったものでしたのがね。

師匠がくださった聖書もまた、学問のうえでの、旅のすすめであったのでしょうか。

清雲 聖書を学ぶことで、比較が生じ、さらに、仏教について学ばなければならないという意欲と、探求心がおこりました。本山への修行に出たのはそれからのことです。

早野 ものを見る目が開かれたのですね。

清雲 師匠の葬儀には、ショパンの葬送曲を流しました。遺言だったのです。「お前たちのお経は聞きたくない」というのです。

早野 仏門においてクラシックとは、前代未聞です。

清雲 師匠の言い付けを守り、出棺のときにショパンを流しました。参列者は、ただ驚くばかりでした。最

期の教えであったと受け止めています。

保健室に逃げる子たち 家庭教育をどうする

早野 情報化社会が進展して、「人」対「機械」のシステムが出来上がり、便利になった一方で、「人」対「人」のコミュニケーションがうまくいかず、孤立感や不安を訴えている人たちが増えています。

ことに、子どもたちの教育環境は問題が多いですね。保健室に自由と救いを求める子どもたちが急増しているともいいます。

清雲 学校と、地域社会、そして家庭が一体となって、子どもたちの教育を考えるときですね。とりわけ、家庭教育の尊さを感じます。今日の子どもたちにいえることは、社会性のな

さ、自立心のなさです。

早野 テキストの勉強はするけれども、社会体験、生活体験に乏しいということでしょうか。

清雲 少子化で、親もまた、子どもたちを大事にし、お客さま扱いにしています。

早野 物質的にはたいへん恵まれた環境におかれていますね。過剰に与えられてもいます。

清雲 しかし、鳥や動物たちもそうですが、巣立っていくためには、一定の条件が必要です。この巣立っていくための条件が満たされています。

早野 家庭教育において、もっとも大切なことはなんでしょう。

清雲 まずは、親が、自信と誇りをもつことでしょう。たとえば、父親が自分の仕事の愚痴を言い、聞いている

女房が批判をし、さらに、子どもに、お父さんのようにならないようにと不満をもらすようでは、これは教育になりません。

早野 お年寄りも、黙っているばかりですね。長い経験があるのでから、自信をもって指導すべきなのでしょうが、年代の隔たりは広がるばかりです。

清雲 昔から、「親の背中を見て子は育つ」といいますが、子どもたちは、じっと親を見ています。ましてや、家庭教育というのは、毎日のことであり、日々の積み重ねです。

早野 挿摺をするのも、脱いだ靴を捨てるのも、親の行いを見ているからですね。

清雲 お年寄りの留守のとき、孫がかわって仏様にお線香をあげるのもそうです。こうして子どもは大人を見



「雨後の筈」PCパン

先日韓国に行ってきた。韓国観光公社によると、昨年、韓国を訪れた日本人は約247万人と過去最高で、日本人の海外出国者の、およそ七人に一人が韓国を訪れたことになる。

さて、ソウルの街を歩いていて目についたのがPCパンであった。PCパンとは、広い店内に数十台の貸しパソコンを配置し、一時間1000~1500ウォン(1000ウォン=約100円)程度で、個人使用ができる店のことである。パンとは漢字で「房」と書き、部屋のことを意味し、若者を中心に入りがある。

韓国のインターネット熱を象徴する一つがPCパンで、全国に3万くらいあるといわれており、その商業性が認められ、海外にまで進出している。

有線ネットでは韓国が優位

東京とソウルは飛行機でわずか2時間ほどの距離にある。しかし、「デジタル時代に対する日韓の接近感度は全くと言っていいほどに相反している」『ビジネスウイーク』(2000年8月8日号)。さらに、野村総合研究所が出した報告書「アジア電子商取引」(5月12日)でも、同じようなことが書かれている。すなわち、インターネット利用率、PC普及率、携帯電話普及率など十数の情報通信指標で、韓国は日本より高得点を取った。

日本では「インターネット」は生活用語になった。しかし、2000年におけるインターネット普及率(人口100人当たりの利用者数)を見ると、日本

インターネットで優位を競う日韓両国
白韓の起業家精神の違いを認識

宮塚利雄

はアジア新興工業経済地域(NIES)に遅れをとっている。シンガポール57.8%、韓国35.3%、香港33.4%、台湾25.2%、日本は19.8%である。

韓国がシンガポールなどとともに高速インターネット接続利用者が増加した理由は、政府主導で広域網(高速大容量)ネットワークの整備が進められたことと、各社がADSLとケーブルモデム、衛星インターネットなどの商品を早めに準備して加入費、装備賃貸料、月間利用料などを下限

まで下げ、その結果一般利用者は比較的低廉な価格で、高速インターネットを利用できるようになったのである。

日韓の起業家精神の違い

一方、日本ではADSLよりも速度が遅いISDNや電話網が、有線インターネットの主流をなしている。電話線を利用して接続するモード利用者を見ると、韓国では減少しているのに対し、日本では増加している。日本では速度が遅くてインターネット接続費用(通信コスト)が高いことが、有線インターネット活性化を妨げる障害要因となっていると考えられる。

もっとも、韓国が日本に対して優位を占めているのは「有線インターネット」部門に限定されているという指摘もある。いずれにせよ、韓国はIMF(国際通貨基金)管理下時代に「新しいことを捕まえなければならぬ危機感からIT産業を“生命線”として集中投資した」と、韓国のIT関連業者は言った。これに対し「深刻な経済危機に見舞われなかった日本は、IT産業のような新しい産業に急いで飛びつく必要がなかったし、冒險を嫌う国民性も“ハイリスク・ハイリターン”的ベンチャー精神と合致しない」からではないかと指摘した。

たしかに日本はパソコンの出荷台数やプロバイダーがアジアの他国に比べて多いことは事実であるが、情報通信技術の実用化には資金のほかにも、アイデア、スピード、柔軟性、起業家精神と言った要素が不可欠であることを、ソウル江南区にあるテヘラン・バレー(IT関連企業が集中した一帯)を歩きながら痛感した。

「いやーどうも、ご苦労様です」。正面玄関を入ると気さくで快活な声が迎えてくれた。訪問させて頂いたのは、今年の2月に新社屋を建設した「有限会社いちのせ」。出迎えてくれたのは代表取締役の一瀬仁志氏。

真新しい応接室に案内され、和やかな雰囲気の中、創業当時の様子を懐かしそうに話し始めてくれた。

子どもの誕生を機に
一大決心、事業を展開

「最初は、共稼ぎのサラリーマンだったんですよ。でもね、子どもが誕生するのに共稼ぎじゃこまるから、当時勤務していた会社の暖かい理解もあってね、なんとか自分で事業をはじめたんですよ。最初は包装資材の卸ということで、なんのあてもなく、不安なスタートでしたね」。

そんな、一瀬氏にすぐチャンスが到来した。チャンスと言うより、一瀬氏の強運のなせる技かもしれない。営業に出た一瀬氏が、甲州街道で以前お世話になった、某一流製菓メーカー(全国的に店舗を展開し、トップ企業として名を馳せている)の社長とバッタリ会った。この出会いをきっかけに、便せん・封筒の印刷を受注。つづいてその会社のアイスクリーム、

かき氷のパッケージを受注、着実に信頼を重ね業績を伸ばしてきた。

現在では、神社仏閣などの封筒、便せんを印刷・製袋し、合わせて製菓を中心としたビニールフィルムのパッケージ印刷など幅広い業務内容で時代のニーズに対応している。

「いろいろな人にお世話になりました。本当に感謝しています」。

経済状況が不安定な中で、着実に業績を伸ばしてきた社長ならではの、人徳が言葉のはしはしから感じられる。「この社屋を建設した早野組さんとの出会いも、ほんとによかった。最初お願いしていた所とは、予算とプランがなかなか合わず困っ



●有限会社 いちのせ●

昭和43年2月設立。包装資材の卸をはじめ、各種パッケージの印刷、神社仏閣への封筒・便せんの製造、印刷などの業務を行っている。社員は、本社勤務が9名、配達センターを兼ねた工場に7名の合計16名。ほか役員が3名。今年、創業33周年を迎えた本社ビルを新築。新たな業務への躍進が期待される。

(本社)
〒400-0813 山梨県甲府市向町395-5 ☎055(235)7587
(配達センター)
〒400-0801 山梨県東八代郡御坂町成田 ☎055(243)4441

有限会社 いちのせ

代表取締役
一瀬仁志 氏
いちのせ ひとし

ていたら紹介されたんですよ。見積書をもらってすぐにOKしました」。

21世紀を迎えて
今後の展開は…

リサイクルを含め、自然や環境に留意した今後の包装業界の見通しについて尋ねたら、今までの気さくな表情が一変、真剣な眼差しで応えてくれた。

「難しい質問ですね。当社としては、こんな時代ですから現状維持がでければ良いと思っています。ただ、パッケージなどの包装業界は時代に応じて、環境にも考慮した経営が求められています。ここ一年間で受注が増えたのは、プラスチック製品部門。さらに安価競争になり、いずれの企業もコストのかからない素材を選んでいるという。

「課題の多い中で、一つひとつ模索しながら、企業の役割を確立させ情報交換していく。迅速にお客さまのニーズに対応をしていきたい」。一瀬氏の言葉はそのまま、この業界の明日を見つめるキーワードになると感じた。



今日はどの町の、どのお客様に、
何を、何時に、どれだけ、
お届けすればいいのか。



ユーザー様訪問



事業内容

- 一般貨物輸送
(一般、常用、専属)
- 重量品輸送
(取り付け、取り外し搬出搬入作業)
- 入出荷請負
(荷造り、梱包作業、出向代行業務)
- 引越輸送
(事務所・工場の移転、ご家族のお引越し等)
- JRコンテナ輸送取り扱い
- 一般貨物全国定期便
- 宅配便
- 航空便取り扱い
- 生命保険の募集及び
損害保険代理業

流通の基本を大切に、21世紀へ走り出しました。
甲府通運株式会社

本社 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3329-1
TEL.055-273-0611 FAX.055-273-9332
田富営業所 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3211-14
TEL.055-273-5471 FAX.055-273-6277

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめぼえる文化探訪

生活スタイルに合わせて四季を楽しむ



丁寧でやさしい指導で作品も生き生きと完成へ

心を生けることを 大切に

真剣な眼差しと手つきで、花や木を用意した花器に植え込んでいく。生徒さんの多くは手慣れた手つきで、レイアウトを考えながら思い思いの感性で完成に近づいていく。

教室ではフラワーアレンジメントを中心に生け花の楽しさを教えていく。「生活スタイルに合わせて楽しんでほしいですね」主宰している渡辺貴子さんは、にこやかな笑顔で応えてくれた。



多くの種類の花を生けるのではなく、2~3種類で飾るフレンチスタイルが今風、さらに花や木の特長(個性)を見極め、それを最大限に表現することを学んでほしいと。

「色や形に心を添えて、自分をも表現してください」なるほど、目の前にある素材を見ていかに表現するか、花の世界も学ぶほどに奥深い。

「でも、楽しむ気持ちとお花が好きなら、誰でも生き生きと表現できますよ」。

花は人生を幸せに してくれる

貴子さんは、華道の池坊の先生でもあり、日本の古典的な生け花も極めている。「花が生活に自然にとけ込み、花を通じて心をみがく、そして気配りも身につけて」と教える言葉にも熱意が伝わる。そして「花は人生を幸せにてくれる」をふと、気づかせてくれるそんな教室に思えた。



貴子さんがアレンジした作品

昭和教室

フラワーアレンジメント	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00-RM03
花束制作	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00
コンテナガーデン	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00
1Day Lesson	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00
河口湖教室	
フラワーアレンジメント	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00-RM03
花束制作	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00
月1回コース	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00-RM03
びーはうす教室	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00
フラワーアレンジメント	毎月第1週末(祝日) PM15:00-PM18:00-RM03

◆デュークフラワー・タカコルーム◆

フラワーアレンジメントの他、再生池附生け花、コンテナガーデン、など内容は多彩。昭和教室、河口湖教室、びーはうす教室を開催。
連絡先 〒409-3844 中巨摩郡昭和町井掛 1732 ☎055(275)1151

1. ITとビジネス・プロセスの融合の難しさ

今更いうまでもなく、ITによって、コミュニケーションや情報収集の方法は大きく変化し、ビジネス・プロセスも大きな革新が起きている。ただ、一方でよく聞かれる声は、「IT業者に勧められて、高いコストをかけたけれども、うちのビジネス・フローではうまく使いこなすことができない」とか「IT業者の説明は聞いたけれども、あちらの考へている世界観を一方的に話すばかりで、ウチの仕事を全く理解していない」といったことだ。つまり、ITによって技術ベースでどこまで展開できるかという潜在的可能性和、これまでのビジネスの流れがすべからく合致するものではないという基本的認識が欠けているのだ。

2. 日本の消費者の文化特性を理解せよ

過日もある自動車メーカーから、「web上で自動車販売を始めて、ある車種について4000通りものなかから、オーダーできる仕組みを作ったのだが、どう考えるか」と相談があった。消費者の受注に合わせて生産するというのは、口でいるのは簡単には聞こえるが、これを生産ラインに繋げ、それに対応した在庫管理を行うことは大変な苦労があつただろう。さらにはこれをディーラーに納得させることは困難が伴つたことと思う。

しかし、消費者行動の理解をベースにシステム構築を考え、生産プロセスに繋げて行かないと、大きな失

ITによる ビジネス革新の落とし穴 ～消費者行動の理解の重要性～

山梨学院大学 商学部
助教授

青木 茂樹

敗を招きかねない。本質的問題は、日本人の商品選択能力の問題である。パソコンですら、一部のマニアはともかく、オール・イン・ワン(すべてが予めセットされていること)が日本では基本だ。過日、日米の学生と話していて、何のパソコンを使っているかという話になった。日本学生が「NECの…」と話をしていたらアメリカの学生は不思議な顔をしていた。彼らにとっては「CPUはペンティアムの…、HDは…」とすべて自分の好みで組み合わせたものがパソコンという商品なのである。

料理も同様だ。日本人は、コースメニューが好きで、アラカルトの概念が無い。「どの店のイタリアンやフレンチを食べた」というのが重要であって、「あの店の牛肉のカルバッジョと、ルッコラのサラダ、ボルチーニの

パスタに、パローロ94年を合わせたら良かった」とはなかなかならない。

日本料理も中華もフレンチも前菜からスタートするように見えるが、その本質は異なる。日本料理は、一の膳、二の膳と進むが、実はそれぞれの膳の空間的な配列の美に料理人の腕が試されるわけで、しかもそれぞれの膳を選ぶことはできない(近年はフレンチ、中華の流れをくんで選択できる要素も増えているが)。要は日常の定食屋と同じで、1つの膳でオール・イン・ワンが基本である。中華やフレンチは前菜からの基本的な流れはあるが、各メニューを選択することが普通だ(近年はコース・メニューの設定も増えているが)。つまり時系列的な選択に意味があるのだ。どちらが良い悪いではなく、本質的に思考パターンが異なるのだろう。

また、reasonableの意味も違うのだろう。アメリカでは、各オプションを選択させて、それを加算したものが「なるほどreasonable(合理的)だ」となる。要素還元論な発想が根底にあるのだ。日本では、ちょこっと選択させた気にさせて、「合計ではこれだけになります。ただ、○○さんとの関係ですから、うーん下取りも含めて20万引にさせてもらいます。」「なるほどreasonable(安い)だな」となる。全体論というか関係論というか、違った意味で複雑曖昧である。多くの会社の見積りも似たところがあって、実は値引き総額も含めた上で価格設定してあり、それを無理矢理、個別品目の価格に割り振っているものもある。こうした文化の差を考えて、IT導入を考えなくては、無駄な投資になりかねないであろう。

山梨文芸協会会員

佐藤 信子



戦後、長く狼藉に住んだ詩人の竹内てる代さんが、去る2月4日、老衰のため新潟で亡くなった。96歳であった。

若い時から病氣と闘ってきた竹内さんが長生きをされたことを尊く感じた。

竹内さんは、生命力にあふれた、素朴な詩を書き、多くの読者を得ていた。私の友人の一人も病氣で療養していた時に竹内さんの詩に励まされた、という。

とりわけ、別れた子供への母情溢れる愛の詩には心を打たれる。昭和の初年、結核性の脊髄カリエスをわずらったため子供をおいて離婚したのだった。

遠い子供(『花のまごころ』)

遠い子供よ
お前は 私が 誰だか知らない
しかも 私は こんなにも愛している
風がくぬぎの枝々に鳴りわたる
秋のしづかな くれがたに
心を込めて 百のくちづけをかぜの中に放つ
これらの中の どの一つでもが
もしや お前にとどきはしまいか

遠い子供よ
お前は 私が 誰だか知らない
しかも 私は こんなにも愛している

嫁家を後にした竹内さんは、身寄りもなく、頼っていた先は、詩の仲間だった。療養と詩作の生活が始まる。

当時、竹内さんを見舞った詩人の伊藤信吉は、「竹内てる代はずっと寝て話していた。話しの途中で声が出せなくなることがあった。あんまり痛みがはげしいため、気を失う状態になる。(中略) 病気の痛みに耐えるだけでも、ひたむきでなければできなかつたろう。その頃の竹内

てる代の姿を目にうかべてみると、よくぞ永く生きのびることが出来たとおもう」と後に記している(『逆流の歌』)。

草野心平が「竹内てる代を死なせない会」をつくってくれた。原紙を切って、臓写版で第一詩集『坂く』を世にだしてくれたのも草野心平だった。高村光太郎や尾崎喜八も援助した。療養の場を提供、保護してくれたのは神谷暢だった。

グループの人は、アナキスト系の詩人、人生的、人道的な詩人、いろいろだった。宮沢賢治も執筆者のひとりだった。

空気もよく、環境もよいからと、猿橋へ竹内さんが越してきたのは昭和29年、当時は、中学の国語の教科書に詩がのっていたし、詩その他の作品も親しまれていた。高校の文芸部の生徒が訪問記事を学園祭で展示したりもしていた。

しかし、竹内さんに最愛の息子さんを病に奪われるという悲しみが訪れる。25年ぶりの再会も束の間のことだった。

10年ほど前、詩作のことや山梨の思い出をお尋ねした手紙を新潟へ出したら、「そっとしておいてください」とのお返事だった。

息子さんを失った悲しみの中で竹内さんは、自分の幸いや詩人としての栄光を捨て不幸な人のために役立つ人生を送ろうと、70歳にして自らを転換させたのだった。

私がそのことを知ったのは後になってからだった。もうお聞きすることをやめ、同居している田中さんにお体の調子を電話で2回ほどお尋ねした「お元気ですよ。」と田中さんは答えてくださっていた。

大月の息子さんのお墓のあるお寺には、毎年、竹内さんから供養料が送られていたという。

竹内さんの母の愛をうたった詩が、今後も読みつがれていってほしい。

「竹内てる代の闘病と愛の詩」

INFORMATION

2001.4月 ビスタ店から注目リリース!!

WiLL 第2弾は5ドアスポーツカー

今年1月開催のLAモーターショーで展示、注目されたプロトタイプカーが4月にビスタ店から発売されます。WiLLコンセプトカーと呼ばれるこの車は異業種5メーカーの合同プロジェクトの第2弾です。クールなボディにホットな走りのパフォーマンスでビスタ店から登場です。

ぜひお近くのビスタ店でお確かめ下さい。



WiLL コンセプト



20~30歳代の男性向けに作られた
5ドアスポーツ
個性的なエクステリアをもつ



航空機のコックピットをイメージ
したというインテリア

トヨタビスタ山梨(株)
本社:甲府市朝氣3丁目10・21 TEL055-232-5511

『シンセ・ノイエ』誕生!!

『シンセ・ノイエ』は設計の自由度や耐震性を高めたほか、昨年10月からスタートした住宅性能表示制度で、9分野中4分野でのトップ水準を標準仕様にしました。

『シンセ・ノイエ』には、和風調「J」とモダン調「S」の2種類があり、42種類の基本ユニットの組み合わせにより、従来型より設計の自由度を約2倍に高め、購入者の様々な好みに対応できるように、デザインなどのバリエーションの幅を広げています。

住宅性能表示制度では、「構造安定性能」「空気環境性能」などで高水準を達成、外装塗装には従来型の2倍の耐久性を持たせました。



シンセ・ノイエS



シンセ・ノイエJ

トヨタホーム山梨(株)
本社:甲府市朝氣3丁目10・21 TEL055-275-1234 TEL055-275-7806

INFORMATION

地球環境を守るために

地球温暖化防止、大気汚染防止などの環境問題への取り組みとして、自動車のドライバー一人ひとりが環境にやさしい運転を心がけることが求められている。特にCO₂(二酸化炭素)排出抑制の観点から

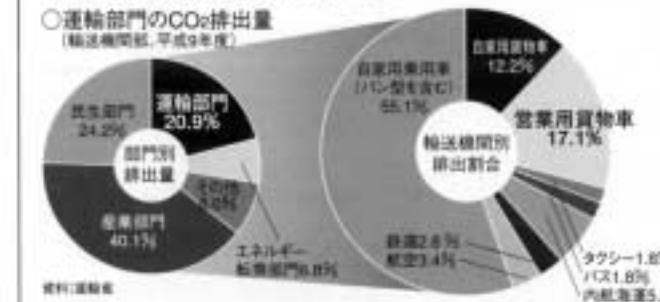
「無用なアイドリングは止める」
「経済速度で走る」
「点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にする」
「無駄な空ぶかしはやめる」
「急発進、急加速、急ブレーキをやめ、適正な車間距離をとる」

などエコドライブ項目をあげて、ドライバーへの普及活動を進めている。

急発進・急加速の防止や定速運転の励行など省エネ運動については、通常運転と省エネ運動の燃費を比較した結果、燃料削減率が平均12.4%高い効果がある。トラック運送業界をあげて取り組んでいるアイドリング・ストップ運動は、荷卸しなどの駐停車時にエンジンをこまめに切る運動で、中核的な運動になっている。乗用車では1分間のアイドリングでガソリン130ccの燃料が、大型ディーゼル車では1時間のアイドリングで最大1,800ccの燃料が無駄になるとされています。

また環境対策の中心となるのが低公害車の普及である。実用段階にある低公害車は、天然ガス(CNG)自動車、メタノール自動車、ハイブリッド自動車、電気自動車の4種類があげられる。現在20都道府県で約1,300台が導入されている。これらの車両は2トン車、4トン車クラスを中心だが、最近ではLNG(液化天然ガス)車で10トン積み大型車の開発も進められている。

低公害車の大量普及には、多くの課題があるが、燃料供給インフラの整備、適正な燃料価格の維持など国や地方自治体の支援策が求められている。



外出禁止令下に

この絵が描かれた大正5年(1916)といえれば、劉生は24歳で、7月には、医者から肺結核であると診断を下された年である。劉生は代々木から、医者の住居に近い駒沢に転居している。医者は固く外出を禁じたので、仕方なく劉生は、この時期、かなり良質な静物画や肖像画を描いている。

この年の4月12日に撮影された、劉生一家の写真が残されていた。妻の葵と麗子といっしょの写真である。このとき、すでに劉生は肺結核にかかっていたことになるが、劉生はそのことをまだ知らないでいる。そういう時期に撮影した写真なのだ。

耳の大きな劉生であるが、瘦せているので一際それがめだって見える。劉生の左手には結婚リングが光っている。妻葵の顔立ちは端正で、知的な美人だ。麗子は母親似だったのかもしれない。

古屋君という人

この絵は9月10日に描かれたことでわかっている絵だ。この日一日で描いたのだろうか？ それは無理な話だろう。これだけ描き込んでいたのだから、多分、9月10日に完成了ということなのだろう。

7月に肺結核であると診断されたあと、外出禁止状態でいたある日、古屋君は劉生宅を訪れたのだ。見舞いによったのか、それとも他に何か用事があったのか。

ともかく劉生は古屋君にモデルを頼み、古屋君はそれを承諾した。それから古屋君は劉生宅を何日訪れたのだろう？

大正五年のある日、
古屋君は確かに劉生の部屋にいた

ボクの美術品観察日記

山本 育夫

17

ミニアジアム・マガジン・ドーム(DOME)編集長／アートマガジン・エル・アール(EL-AR)編集長／また「見聞」誌ランゲブリ編集長
中央公論、美術手帖、週刊朝日などに執筆。大学や美術館などで講演も多数。美術品観察学のマーリングリスト主宰。巡回展観覧会、審査員などを務める。

劉生は古屋君に、自分が肺結核であることを告げたのだろうか？ 見舞いなら知っていたはずだ。そうでないなら、知らぬまま、古屋君は、庭先の野の草などを手に持たされて、モデルとあいなった。しかも何日も。一般的には、結核の友人宅を訪れるのは勇気がいると考えそうだが、この時代はどうだったのだろう。

「てかり」について

「古屋」と書いて、「こや」と呼ぶのだろうで、「こやくん」はこうして劉生の前に座りつづけたのだが、さてこの絵で気にかかるのは、古屋君の頭の「てかり」である。

てかてかと光っているこのてかりは、あきらかに光源によるものだ。裸電球か、ランプの光か。大正5年といふと、そろそろ電気が使えるようになってきたころだ。電球かもしれないが、どうも光源が下のほうにある感じがするからランプかもしれない。

それにしても、ものすごい描き込みである。いくら時間があったとしても、生半可な精神力ではここまで描き込めるものではない。

いくぶんか神経質そうでありながら、意志の強い性格。骨太の指、日に焼けた肌、思い詰めたような目。きっと結ばれた唇。

劉生がこの古屋君に野の草をもせたのには理由がありそうだ。切羽詰まつた道ならぬ恋をしているよう。あるいは恋に破れそうな辛い思いの丈をしよい込んでいるよう。

見つめていると、今から85年前に生きていた古屋君が、こちらを見直して、口を開きそうな気がしてくる。肺結核を押してまで描きつづけてい

る劉生に、もうそのくらいにしておいたほうがいいよ、あまり根を詰めると体に触ると、声をかけたくなる。

内面までをも書き尽そうと

劉生は肺結核が判明する間際まで、有名な切り通しの道路など風景画を幾点も描いているが、さすがに夏以降は外にでて描いていないようだ。

大正5年の11月には、「壺の上には林檎が載って在る」という奇妙な絵も描いている。壺の口のところに青林檎が乗っかっている。ここでも、林檎や壺にてかりが見える。

確かに、古屋君の顔や林檎の表面にてかりがなかったならば、それらの絵は精彩を欠いたことだろう。このてかりが、絵を生き生きとなめかしているのだとさえいえるような気がする。

劉生のてかり。それは劉生の内面の光だ。

劉生は38歳まで生き、昭和4年(1929)、胃潰瘍に尿毒症を併発して他界した。



「古屋君の肖像(草持てる男の肖像)」
岸田劉生(1891-1929)
大正5年(1916)9月10日制作
東京国立近代美術館所蔵



古屋君の肖像部分1



古屋君の肖像部分2



古屋君の肖像部分3



代々木時代の劉生一家



「壺の上に林檎が載って在る」
大正5年(1916)11月3日



「道路と土手と桜(切通之写生)」
大正5年(1916)11月5日

見る 滝 ハイキング

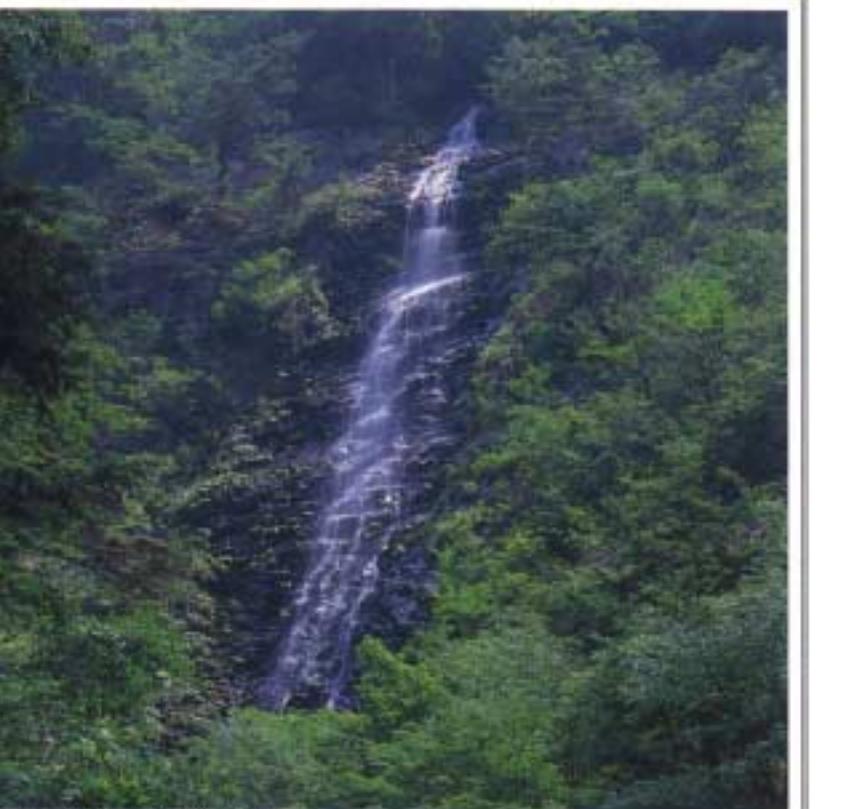
vol.13 大滝川・大滝（雄滝）（勝沼町）写真と文 上野 嶽



鹿の鳴。コースの途中に咲くヤマブキの花



暗い木立の中に立つ大滝不動の山門



下部を新緑の中にかくして落下する大滝



大滝川・大滝（雄滝）周辺図

参考タイム

勝沼ぶどう郷駅	車15分
↓	
大滝不動前	徒歩5分
↓	
大滝不動	徒歩30分
↓	
展望台	林道を徒歩30分
↓	
大滝不動前	

大滝川の源は、勝沼ぶどう郷駅の東の山中があり、笛吹川の支流の支流となる小さな流れだ。

そんな流れの上流にこの大滝はある。地図を広げてみても源流域などほんのわずか。滝から水源となる稜線までの水平距離が一歩ほどしかない山中から、どうして大滝と呼ばれるほどの水が落ち続けるのだろう。

「甲斐国志」がこんな解答を出している。「大瀧山 牛奥菱山両村ノ東ニ在リ東北深澤山ニ接ス山頂ニ池アリ溢レテ大澤トナル古樹陰森タリ是ヨリ南ノ童山（ハゲヤマ）ヲ剣ノ峰ト云フ……」（巻之二十三山川部第四）

確認したわけではないが、あの山中に池があるとは思えない。まして山頂に池などとは車なる想像だろうが、そうとも思わない。

林道に登り着くので、右にいくとアズマ屋の立つ展望台に出る。盆地東部と南アルプスの眺めがいい。帰路は往路を帰るか、大滝林道を南に下れば菱山深沢林道に出るので、右に歩けば大滝不動前の駐車場に戻れる。

林道に登り着くので、右にいくとアズマ屋の立つ展望台に出る。盆地東部と南アルプスの眺めがいい。帰路は往路を帰るか、大滝林

ければ、この滝の存在は理解出来なかつたのではないか。その神秘性がここに修験者の道場などを開かせ、不動尊を祭らせたのだろう。勝沼ぶどう郷駅から前不動を通つても行けるが、手前で菱山深沢林道に入る。右手からずっと左へ回り込んで大滝不動前に着く。古い山門をくぐって石段を上がり、朱塗りの本堂の左手に大滝が見える。本堂の右脇から小橋を渡つて遊歩道に入れば、すぐに大滝（雄滝）に対する雌滝がある。この辺りからも大滝はほぼ全景を見ることが出来るが、もう少し歩こう。赤い鳥居の弁財天とあとふたつのお堂の前を通つて進むと、スギの木立の間から大滝の全

甲府通運前史を訪ねる(17)

〈甲府通運のページ〉

早

野組の代表である早野家には、先代の早野鉄介が

関係する事業についての覚えともいえる記録が保存されている。それは「早野鉄介甲府通運株式会社設立に付いて」と題する記述がある。前文ともいえる甲府通運株式会社の設立申請の事情について「昭和式拾參年十一月三日運輸省當局より小運送業複数制化実施令あり早野は早速昭和二十一年十二月一日附にて小運送自動車株式会社名にて小運送業免許申請書を甲府管理部に提出す。対立者としては山梨貨物運送社長河西氏あり、當時山梨貨物も事業力隆盛でありましたが、早野は先代よりの遺業を守るために必勝の決意にて許可獲得のため奔走、その結果、山梨貨物をおさえ甲府通運に許可がおりましたのが現在の甲府通運の創立となつたのです。」

甲府通運創立についてはすでに述べ、重複するが、早野先代社長の「免許申請の経緯」と題しての文があるので紹介する。

〔甲府通運KK設立発起人早野鉄介は父早野金蔵の代に於て中央線篠子隧道開通工事を始め同

時、身延線南甲府駅の鉄道発着貨物の積降し作業請負の便益を取得し其の後時代の変遷と共に其の関係取扱ひ駅を甲府・酒折・石和・南甲府の四駅として積降し作業を営んで来ましたが、昭和八年父金蔵の歿後引き続き免許通運業者の下請業者として鉄道発着貨物積降し業に従事して参りましたが、昭和十九年鉄道御当局の要望にそい当該下請け作業を日本通運株式会社に移譲致しました。また昭和十八年甲府小運送KK自動車取締役である義兄中沢誠の辞任にともない同社取締役に就任、終戦後は同社取締役社長に就任現在に至っております。昭和二十三年十一月三日運輸省御當局により小運送業複数制化実施に関する閣議決定

甲府通運創立についてはすでに述べ、重複するが、早野先代社長の「免許申請の経緯」と題しての文があるので紹介する。

〔甲府通運KK設立発起人早野鉄介は父早野金蔵の代に於て中央線篠子隧道開通工事を始め同

時、身延線南甲府駅の鉄道発着貨物の積降し作業請負の便益を取得し其の後時代の変遷と共に其の関係取扱ひ駅を甲府・酒折・石和・南甲府の四駅として積降し作業を営んで来ましたが、昭和八年父金蔵の歿後引き続き免許通運業者の下請業者として鉄道発着貨物積降し業に従事して参りましたが、昭和十九年鉄道御当局の要望にそい当該下請け作業を日本通運株式会社に移譲致しました。また昭和十八年甲府小運送KK自動車取締役である義兄中沢誠の辞任にともない同社取締役に就任、終戦後は同社取締役社長に就任現在に至っております。昭和二十三年十一月三日運輸省御當局により小運送業複数制化実施に関する閣議決定

甲府通運KK設立についてはすでに述べ、重複するが、早野先代社長の「免許申請の経緯」と題しての文があるので紹介する。

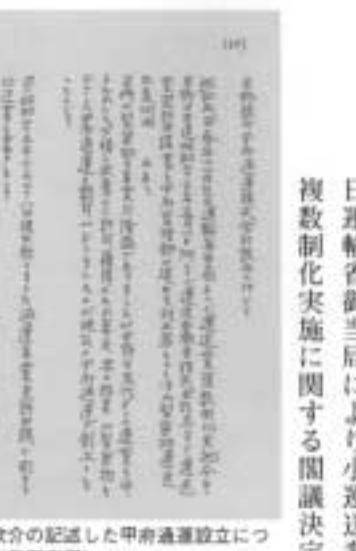
〔甲府通運KK設立発起人早野鉄介は父早野金蔵の代に於て中央線篠子隧道開通工事を始め同

時、身延線南甲府駅の鉄道発着貨物の積降し作業請負の便益を取得し其の後時代の変遷と共に其の関係取扱ひ駅を甲府・酒折・石和・南甲府の四駅として積降し作業を営んで来ましたが、昭和八年父金蔵の歿後引き続き免許通運業者の下請業者として鉄道発着貨物積降し業に従事して参りましたが、昭和十九年鉄道御当局の要望にそい当該下請け作業を日本通運株式会社に移譲致しました。また昭和十八年甲府小運送KK自動車取締役である義兄中沢誠の辞任にともない同社取締役に就任、終戦後は同社取締役社長に就任現在に至っております。昭和二十三年十一月三日運輸省御當局により小運送業複数制化実施に関する閣議決定

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当

早野鉄介がのこした記録から再びたどる甲府通運の歴史



早野鉄介の記述した甲府通運設立について（早野家蔵）

このに統く文書として、「通運事業免許申請の理由」があり、甲府小運送との関連、取締役等について、事業経営方針について、従業員について、会社の特徴についての項目が挙げられているので順次記してみる。



“小作のほうとう”
自家製味噌と言えば
甲州名物と言えば



まだ、森林の中には残雪が残る国 春には山菜、秋には松茸と季節を 道141号を清里方面に向かって走つ 感じさせるメニューにも工夫を凝らしていくと、進行方向左手に大きな木 しており、一番人気のかぼちゃほう車が視界に飛び込んでくる。今日の とうの他にも、バリエーションが豊 訪問先の「小作・清里店」だ。

今年は例年になく、山梨は大雪に とうなどは大変めずらしい。リビー見舞われた。国道141号も2回ほど通 ターも多く、何度も訪れてはい 行止めとなつた。店長の仲間さんは、

「今年は本当に、この車たちが活躍 「車もですけど、担当の清水さんとは、 しましてね。助かりました」と話 6~7年のつき合いになるんです。朝、 し始めてくれた。仲間さんはプライ 電話すると2時間後にはここへ来て車 ベートで、ランドクルーザーのプラ の様子を見てくれていますよ。フットド(TXリミテッド)を所有。社用車とし ワークのよいのも助かりますね。うち ては、ハイエースワゴン(4WD)を活用 では、清水さんの人柄も含めて、社員 している。今年の大雪で、通常お客様 にもビスタさんの車を進めていまして の送迎に活躍しているハイエースは從 ね、何人か乗っていますよ」。

業員の送迎用としても、力強い走りを 一つひとつの信頼関係を大切に育 発揮してくれた。

手作りの自家製味噌と特注の麺が つながっている。

自慢の小作のほうとうは、県外のファ 今年で15年目を迎える小作清里店 ンも多く山梨の味として定着してい の、大切なパートナーとして2台の車が いる。観光客の受け入れ体制も手慣れ ており、大人数のお客様でも自慢の ているようだ。

清里店でも、収容人数は250名と他の 支店同様手際の良い対応で評価が 高い。

[DATA]
〒401-0502 北山梨郡高根町清里 3545
TEL・FAX 0551-48-2801

長きにわたつて
暮らしやすく
快適な環境をと考えた家



上今井町周辺の中で、ひときわ屋根の高い家にお住まいの若林さん一家をお訪ねすると、奥様の恵子さんが笑顔で迎えてくれた。御主人の若林一さん(35歳)のお宅は、昨年11月に完成。開閉も簡単にできるようになっている。入居されたのは奥様の出産もあり12月になってしまったという。子供さんが中でいかに広くスペースを取れるかが生まれて2ヶ月程しての入居だったの一番のコンセプト」と、この間取りにしてとても忙しかったようだ。トヨタホーラムに決めたきっかけとなったのが、ご主人のお姉さんの旦那さんがトヨタホーラムの設計にいることから、相談もしやすくお願いすることになったという。全部で約48坪。敷地の関係から縦長になってしまふ中で、いかにスペースを広く取ることができるかに重点をおいた。若林家の玄関はスロープになって

「2階3階とも、冬は陽当たりがよく、 いて、車椅子での出入りが殆ど暖房をつけなくても暖かく過ごせしやすくなっていた。お母様 ます。でも何より空間が広いというこ が車椅子ということもあるってで障害者だけでなく、使いやすい快建物内全てがバリアフリーと 適な環境だと思います」とご主人。 なっている。

「キッチンも広く、何よりシンクが広く 使いやすくなっているのでとっても気 レ、お風呂と全て通り抜けでに入りました」と恵子さん。快適な環 境を追求したからこそ生まれてくる笑 から部屋への移動が車椅子顔がそこにはあった。



むずかしい日本の独自の哲学として評価の高い西田哲学というのがあります。

「歴史哲學的にみて、時間は直線的に過去から現在へ、現在から未来へと流れていくのではなく、現在を中心として、過去が現在を規定するとともに、未来もまた現在を規定する。絶対に相反する過去と未来が、現在という場所において一つになる。これが絶対矛盾の自己同一である。」といふのです。

人間が額に汗して働くとは即ち生活のためであり、食を求めるためであります。

苛烈な甲州の風土の自然的条件はここに生きる人びとにその生存のための食を供することをなかなか許しませんでした。

古来から甲州に生きる人びとの歴史は、苛烈なこの自然的条件をどのように克服するかにありました。料理という具体的行為にいたるまでのそれにひめられた抽象的時間は気の遠くなるほど永遠なものであり、その地域に居住する人びとの喜怒哀樂、人の生きるという意味がみごとに現在に現実のあらゆる矛盾・対立を止揚して結実し、結晶したのが、たとえば甲州のオホウトウといえましょう。

そこには他の地域との妥協をいっ

さい許さない峻厳さ、独自性が内包されています。

甲州の独特の風土に歴史的条件に根ざした経済的構造そのものが下部構造として甲州の文化構造をなし

**会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ**

「オホウトウ」を哲学する



清水 威
しみず たけし
帝京大学講師

ているからであります。

抽象的時間はここにみごとに統一化されて具体的な食物として集結化しました。

西田哲学の「絶対無の場」からみると、郷土料理は過去に根ざすがために、過去の歴史的伝統的味覚の素朴さを厳然としてその内に保有しながら、より新たな社会的、文化的発展に影響を与えるながら自己変革を未来に向けて少しずつはたしているといえましょう。

ところが実は、現在に対する未來

からの反逆はかえって郷土料理の原点をかぎりなく哀惜するものとなっていきます。

未来からの反逆、新しい郷土料理の開発とは実はこれまでの郷土料理の真髓をさらに奥深く、その秘境をさぐることに沈潜していくのではない

か。現実の郷土料理への反逆は、実は自然に帰れ、古里へ帰れ、さらには

古里とは何であるのか、郷土料理とは何であったのかに還帰していくことで、かえって無限の新しさを求めて挑戦していくかにみえます。

過去の伝統に一度還帰することによって未来への飛躍をはかることがここでは矛盾なく現在を中心として可能とされます。

われわれは甲州のオホウトウの料理の素朴さ、食材のもつ味そのものを引きだそうとする手法のシンプルであることに対してコンプレックスを持てはなりません。そこには歴史が、文化が、伝統が凝縮され、未来を指向している、過現未の一体化がみられるのですから。

古いコマーシャルに「今日シンプル・ライフ」というのがありました。

「うまいもんだよ、カボチャのオホウトウ」を愛する人びとの英知の結集を甲州の発展のためにのぞみたいものであります。

ときのひと・FACE

人を結ぶ、地域と結ぶ
知り合はしい心の交流スポット

作業着を着る仕事に憧れて

明るい青色に、オレンジのラインが入ったユニフォームで照れくさそうにあいさつしてくれたのは、小柄できやしゃな印象の西由美子さん、24歳。

彼女は、2級自動車整備士の国家試験をクリアし、2年の本社勤務を経て、念願のメンテナンス担当として、菲崎店に着任した。現在、都留店にもう一人、女性整備士がいる。

自動車整備士というのは、女性の仕事としてはまだ新しい分野。まずは、彼女に整備士へのきっかけを尋ねてみた。

「これからの時代、手に職をつけることが大切だなって考えたんです。それと、家が作業着を着る仕事をだったので、仕事をするなら作業着を着てやるものだって小さい頃から思っていたんです」。

夢を現実のものとして、考えるとき彼女の心には、迷いや不安がなかったと言えば嘘になるが、彼

女の前向きな姿勢がそれらを打ち消していった。

高校を卒業後、日本自動車整備専門学校に入学。

「毎日の勉強が新しいことへの挑戦みたいなものでした。力のいる作業は、ほんと、大変でしたね」。

実践での喜びは、 より大きななげみに…

念願のメンテナンスの仕事で、充実した毎日。しかし、学校時代同様に、力作業の時には人一倍ユニフォームが汚れるという。

「男性なら、ヒョイってできちゃう仕事でも、両手で抱えなきゃならなかつたり大変なこともありますけど、仲間がいますから」。

そう言って、笑顔を見てくれた彼女からは、仲間への厚い信頼をうかがうことができた。

プライベートでは、海釣りが趣味のこと。仕事仲間や友達と、海釣りに行ったり、友達から車のことで相談を受けたりと、休日も



何かと忙しい彼女に、これから目標や夢を聞いてみた。

「もっと、もっと勉強して新しいことをおぼえたいですね。新しい技術は自分の自信にもつながるし、おぼえるのも楽しいですね」。

彼女の言葉からは、自立している潔い女性ならではの強さを感じられた。整備士と言う分野での女性進出をバックアップしている会社の理解と、彼女の前向きな姿勢が、これから自動車整備業界を変えていく一步につながる予感がした。

誰よりも、ユニフォームのクリーニング回数が多い彼女の頑張りと挑戦は、まだまだこれからもバツフルに続いているようだ。



作業着に包まれた 爽やかな笑顔

トヨタピクタ山梨 菲崎店サービススタッフ

西 由美子さん(甲府市)

おしゃれ

最新設備の
8つのスクリーンを完備



グランパーク 東宝8

「お好きな時間を選んで、ゆっくりと映画鑑賞を楽しんでもらいたい」。と語るのは、東宝8の総支配人諸橋澄夫氏。当日、見たい時間をチョイスしてチケットを予約購入する立ち見のない定員入替制を導入。待ち時間の無駄をなくしました。

館内は、全体的に海をイメージした内装になっており、テーマをもつ

たインテリアで統一されている。アメリカのデザイナーのプランをベースにしたとのことで、売店もオープニングイメージで作られている。

また、8つのスクリーンは、いずれも収容人員は異なるもののスクリーンの大きさや音響に差別化はない。

8つのスクリーンでは、常に最新の話題作品を見ることができる。ここに来て小さい所でも最前列とスクリーンの距離が3~4m、収容人員の一一番多いところでは、8~9mとその贅沢な広さにびっくりしてしまう。各席のスタジアム形式のシートの傾斜

からゆっくり

お馴染みの「金萬福」

氏、総料理長とは、親し

い間柄とか。彩りの美し

い盛りつけはもちろん、

茶を手軽に堪能できるお店として、映画待ちの人気はもちろん、家族連れや各種宴会に人気が高い。

顧問は、テレビで



広東名菜 順徳

店舗を構える広東料理の専門店。新鮮な魚介類を吟味し素材にした広東料理を初め、本場香港飲茶を手軽に堪能できるお店として、映画待ちの人気はもちろん、家族連れや各種宴会に人気が高い。

顧問は、テレビで



お馴染みの「金萬福」氏、総料理長とは、親しい間柄とか。彩りの美しい盛りつけはもちろん、茶を手軽に堪能できるお店として、映画待ちの人気はもちろん、家族連れや各種宴会に人気が高い。

顧問は、テレビで

お馴染みの「金萬福」氏、総料理長とは、親しい間柄とか。彩りの美しい盛りつけはもちろん、茶を手軽に堪能できるお店として、映画待ちの人気はもちろん、家族連れや各種宴会に人気が高い。

顧問は、テレビで

お馴染みの「金萬福」

氏、総料理長とは、親し

い間柄とか。彩りの美し

い盛りつけはもちろん、

茶を手軽に堪能できるお店として、映画待ちの人気はもちろん、

家族連れや各種宴会に人気が高い。



某月某日

×月×日

大学で教鞭をとって10年になる。授業の初めにかならず、広い視野に立って一つの理念（イデオロギー）にとらわれないようにしよう、と言うことを話す。一見正しいと思われる主張でも、深く考察してみると別のものが見えてくるからである。

日本の電話料金は、海外に比べて幾分高いと言われている。実際にアメリカで生活した経験から電話料金を比較してみる。

私が現在日本で払っている電話料金は、大まかに見て、携帯電話代3,000円程度、インターネット接続料金2,000円程度、自宅の電話代6,000円程度であり、月によって増減するが大体1万円強といったところである。一方2年前にアメリカで暮らしていたときの電話料金は、インターネットの接続料金を含めて月々約100ドル程度であり、現在の支払いと大して変わらない。

それでも若干アメリカの方が安いかなと思うのは、当時はかなり長距離電話（国際電話）

をかけていたからで、100ドルの電話料金のうち70ドル程度が長距離電話代であり、インターネットの使用料金その他は、日本に比べて安かったような覚えがある。

この料金体系の差というのがよく問題にされていて、「日本では市内通話代が高いので、接続に市内通話を使うインターネットの普及が難しい」と言われている。この話には続きがあって、通話料金が高いのはNTTが独占的な企業だからであり、分割によって競争を高めることができると言わってきた。この主張は、一般に良く知られているところであるし、ある程度正当な主張である。

しかしながら、真の意味での経済的な考察を行うとするならば、独占イコール高価格と言ことだけを主張するのは、不十分である。現実社会に起こっていることを説明するためにもう少し多くの要因を省みておかねばならない。

真実を見るためには…

×月×日

まず大前提として、電話回線の使用が限界費用ゼロに限りなく近いと言うことである。幾分表現が難しいならば、「ある人が電話を使つても、他の人の使用が妨げられないという性格がある」と言い換えられる。野菜、パソコンなどと言った商品ならば、ある人が使った（消費した）ならば、他の人は使えない。しかし電話回線は異なっている。インフラの中には道路のように上記のような性格を持つものがあり、このようなサービスの公正な価格設定は困難を極める。

次に上記のような性格を持つものは、「公的な性格が強い」と言うことである。そうして社会制度、経済状態、歴史の流れといった要素が複雑に絡み合って、その価格が決定されてゆく。

例えば、日本では15年前までは、電話会社は国有企业（電電公社）であったし、さらに電

話の使用には回線使用料の外に「社債の積み立て」というインフラ投資のための「預り金」が必要であった。長距離通話は非常に高価だったので、主に電話は数10キロ以内の範囲での近距離通話に使われていた。

一方アメリカでは、ベル研究所からATT、さらにATTの分割を経て（日本のNTTが誕生した時には、ATTは独占禁止の名目ですでに分割されていた）。すでに激しい競争の下にあった。また、電話回線を使うとことを「市民の権利」と考える人が多いので、高額な基本料金（社債を含む）を設定することが不可能であり、国土が広大なことから長距離電話を使うことが比較的多かった。

こうして、電話料金の体系が変わってくる。ここまで知ると、日本の市内通話がアメリカに比べてある程度高価である理由が見えてくる。

〔文：杉村 啓〕